



ICOMOS Japan information

ICOMOS Japan
(一社)日本イコモス国内委員会

12期 – 6号
2023.6.8

英文サマリー／内藤秋枝ユミイザベル 02
Contents of This Volume in Brief (English only)／Yumi Isabelle NAITO-AKIEDA

はじめに／岡田保良 03
Foreword／Yasuyoshi OKADA

(一社)日本イコモス国内委員会2023年度定時社員総会記録(3/11)／佐藤桂 04
The 2023 General Assembly of ICOMOS Japan (11st March 2023)／Katsura SATO

2023年度第2回理事会報告(3/11)／佐藤桂 18
The 2nd Executive Board Meeting (11st March 2023)／Katsura SATO

日本イコモス賞2022 ICOMOS Japan Awards 2022

受賞者の声 Comments from the Awards Laureates

新上五島町「文化的景観を歩く観光」の充実へ／徳永哲 20
Shinkamigoto Town, to Enhance "Walking in a Cultural Landscape"／Satoshi TOKUNAGA

旧太田喜二郎邸の保存復原プロジェクト／中田貴子、中田哲 21
Former Residence of Kijiro Oota, Conservation and Restoration Project／Takako NAKATA, Satoshi NAKATA

国連水会議／小山佳枝、岩淵聡文 22
UN Water Conference／Kae OYAMA, Akifumi IWABUCHI

「ユネスコ世界遺産条約における天文学・古天文学に関する遺産」日本語訳電子出版[イコモス・オープンアーカイブより]／山内奈美子 23
From the ICOMOS Open Archives: e-Publication of the Japanese Translation "Heritage Sites of Astronomy and Archaeoastronomy in the Context of the UNESCO World Heritage Convention - A Thematic Study"／Namiko YAMAUCHI

記録遺産の防災に関する専門家会議の参加報告／金度源 24
Report on the Expert Meeting "Documentary Heritage at Risk in Asia and the Pacific"／Dowon KIM

International Day for Monuments and Sites(IDM)2023の実施について／宮崎彩 25
Implementation of the "International Day for Monuments and Sites(IDMS)2023"／Aya MIYAZAKI

日本イコモスEP:オーセンティシティに関する連続研究会(第1回)開催報告／山田大樹 26
ICOMOS Japan EP: The 1st Session of the Study Series on Authenticity／Hiroki YAMADA

日本イコモスEP:オーセンティシティに関する連続研究会(第1回)に参加して／下間久美子 27
ICOMOS Japan EP: Participation in the 1st Session of the Study Series on Authenticity／Kumiko SHIMOTSUMA

日本イコモスEP:交流会レポート／豊永早織 29
ICOMOS Japan EP: Report on the Exchange Meeting／Saori TOYONAGA

「古代東アジアの航海・交流・祭祀」—世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業—／岡寺未幾 30
"Ocean Voyages, Exchanges, and Rituals in Ancient East Asia"—Special Research Project for World Heritage Property "The Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region"／Miki OKADERA

講演会「百舌鳥・古市古墳群に魅せられて—調査と研究の最前線—」／百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議 32
Lecture Event "Fascinated by the Mozu Furuichi Kofun Tumulus Group -Frontiers of Research and Survey"／Mozu Furuichi Kofun Local Council

建築史学会大会記念シンポジウム「その後の伝建地区」／下田一太 33
The Society of Architectural Historians of Japan, Commemoration Symposium "Preservation Districts, Thereafter"／Ichita SHIMODA

文化遺産国際協力コンソーシアム「トルコ・シリア地震における文化遺産の被災状況等についての臨時会合」出席報告／牧野真理子 34
JCIC-Heritage, Report on the "Special Meeting on the Situation of Damage to Cultural Heritage in the Turkey-Syria Earthquake"／Mariko MAKINO

地方分権化時代における文化遺産の可能性—「文化財保存活用地域計画」の策定に寄せて—／藤井恵介 35
The Potential of Cultural Heritage in an Era of Decentralization／Keisuke FUJII

「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」の概要と課題／連健夫、深見奈緒子 36
Overview and Issues of the "Project for Sustainable Protection Measures in the Old City of Cairo / Community Development with the Participation of the Residents"／Takeo MURAJI, Naoko FUKAMI

アワーワールドヘリテージ財団—市民を中心とした保護活動のネットワーク—／ウーゴ ミズコ 37
The OurWorldHeritage Foundation - Protect Heritage, Engage Civil Society／Mizuko UGO

大湯環状列石と大湯ストーンサークル館について／赤坂朋美 38
The Oyu Stone Circles and Oyu Stone Circles Museum／Tomomi AKASAKA

会員往来 Correspondence

より豊かな「往来」へ:平沢官衙遺跡での試みを通じて／脇園大史 39
Towards Richer Communications: A Multivocal Approach to Hirasawa-Kanga Archaeological Heritage Management／Daishi WAKIZONO

お知らせ Announcements 40

事務局日誌 Diary 42

「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」の概要と課題

連 健夫^{*1}／深見奈緒子^{*2}

この事業は、令和3年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業及び令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業として一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構（以下JCAABE）が受託し、日本学術振興会カイロ研究連絡センターの深見センター長を中心とするエジプト側^{*3}と、日本側^{*4}との連携によって1年半にわたって実施されたもので、詳しい内容は報告書^{*5}に記しており、ここではその概要と共に、浮き彫りになった示唆と課題について報告する。

■対象エリアと活動内容：カイロの旧市街、世界遺産のコアゾーンであるダルブ・アフマル地区内のスーク・シラーハが対象エリアで、以前から深見等が住民ワークショップ等の活動を実施してきた。これらを下地に1年目は、1) 建築や街路の現況調査、2) まちづくりの基準調査、3) 住民参加の仕組としてのワークショップ実施、4) 日本のまちづくりの蓄積の共有、5) 6つの歴史的建築物の更新案の作成、6) それらを元にステークホルダーとの意見交換を実施した。2年目は、その積み重ねとして、7) カイロ旧市街の価値を的確に評価し、8) 住人から街に対する意見を聞きだし、9) 行政と住人の間を繋ぎ、10) ファシリテーションの手法を用いて住民の合意形成を図ると共に、まちづくりの提案をまとめた。

■事業の特徴：保存まちづくり活動において、①住民参加により、街や建築への関心を深めると共に、主体的まちづくりの意識啓発を図った。このために②JCAABEが文科省委託事業^{*6}で構築した「まちづくりファシリテーター養成講座」を活かし、現地の建築家や専門家に講義（11回）を行い、その受講者が住民ワークショップ（9回）を行うという学びと実践のコースを設けたことである。また③それを通して、専門家と住民とのアイデ



ファシリテーターへのアドバイス



住民ワークショップでの提案発表

アがブレンドされたソフトとハードの具体的提案ができたことである。

■得られた示唆と課題：まず言えることは、①文化の違いを理解することの大切さである。民主主義が根付いていないエジプトにおいて対話の中で合意形成を図ると共に、その結果を行政やステークホルダーに伝えて具体化の道筋を作ることの難しさの理解である。②また日本語、英語、アラビア語の3ヶ国語を用いたコミュニケーションにおける工夫の必要性である。これらは事前に役割分担と仕組みを作らないと機能しない。これについてオンライン技術において通訳を入れ必要言語を選ぶことができるシステムは役立った。この仕組みは、他にも応用できるよう報告書に記している。③エジプト側と日本側専門家のコミュニケーションの大切さが指摘できる。情報の共有ができていないと不適切なアドバイスとなったり、相互にフラストレーションが発生することになる。④対面の重要性があげられる。1年目はコロナ禍で訪問できなかったが、2年目は訪問でき、直接ファシリテーターにアドバイスし、住民ワークショップを支援し、意見の引き出し方などのニュアンスを伝えることができた。これはオンラインでは難しいことである。

■今後の課題：当事業の成果として、ソフトとハードに関する多くの具体的提案が生まれたことは成果であり、その具現化が今後の課題である。6つの歴史的建築物の利活用、公共サービス（交通やゴミ処理）の方法、無形文化遺産の活用、地域コミュニティーに根差した観光事業、災害への対応方法など提案は広範囲にわたる。参加者のアンケートには、毎回「今日の結果を具体化すること」があげられ、住民も切望している。まちづくりで大切なのは、小さくても実施事例を作ること、そこには社会実験の要素があり、事例を通して学び、ブラッシュアップし、その活動を拡げていくことである。その担い手人材養成が当事業の主眼であり今後その支援も求められよう。また他の地域に応用できる当手法の水平展開も今後の課題であろう。

※1：一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構代表理事

※2：日本学術振興会カイロ研究連絡センター長

※3：アラール教授、サラール教授、柏木、檜山

※4：布野、岡田、苅谷、荒牧、磯野、市古、穴戸、松村、連

※5：https://jcaabe.org/page-2377/

※6：令和2～3年度文部科学省「専修学校による地域産業中核的人材養成事業／まちづくりファシリテーター養成講座」